



給食会だより

第106号

〔公財〕川崎市学校給食会



〒210-0004 川崎区宮本町6番地（明治安田生命ビル4F）

TEL 200-3298,3300 FAX 222-1442

第66回全国学校給食研究協議大会 高知大会 報告



「生きる力」を育む食育の推進と学校給食の充実

～食でつなげる未来の元気な子どもたち～

（公財）川崎市学校給食会理事長 山田雅太

今年の全国学校給食研究協議会は、高知県で11月5日（木）～11月6日（金）にかけて行われました。川崎市からの参加者は、いつものように学校現場の栄養職員が2名、教育委員会の学校給食担当者が1名、そして学校給食会から1名の計4名です。

全体会の最初に、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課企画官 竹林敏之氏から、2点お話がありました

1 第3次食育推進基本計画の策定に向けて

2 食育推進に関する政策評価について

の2点です。一つ目の食育推進基本計画は、現在、内閣府が主管で、平成28年度から農林水産省へ移管するという事です。二つ目は、食育推進の政策評価は、総務省の管轄だということです。学校で大切にしている「食育」が文部科学省の管轄になっていないことに驚きました。

食育推進基本計画については、今後取り組むべき課題として20歳代を中心とする若い世代の食育の推進、家族形態の多様化に対応した食育の推進（子どもや70歳代女性の孤食の増加）、学校給食での地域の郷土料理等の食文化の継承などがあげられていました。

食育推進に関する政策評価について、学校に関わる課題について2点のみご報告申し上げます。一つは、**学校における食に関する指導体制整備**についてです。栄養教諭配置の効果の把握が不十分と指摘されました。二つ目は、**小中学校で作成する「食に関する指導に係る全体計画」**は、約3割の学校がその達成状況を未評価であるという指摘です。これらに対して、文部科学省は、今後、「栄養教諭配置の効果把握すること」、「食育全体計画の評価の実施を指導していく」という説明がありました。

今年の実践発表は、「塩分摂取に着目した食生活改善へのモデル検討 ～スーパー食育スクールの取組から～」という演題で、高知県香美市立大宮小学校の栄養教諭と養護教諭が連携して発表していました。

休憩をはさんで、「釣リバカ浜ちゃんの『土佐流食育』のすすめ」～高知の豊かな「食」を子どもたちの「生活技術向上」につなげよう～という演題で、小学館で「釣リバカ日誌」の初代担当者として作品に関わったり、「浜ちゃん」のモデルとなったりしたことでも有名な黒笹慈幾氏の講演がありました。

黒笹氏は、元東京都公立小学校栄養士の実践をとりあげ、食育の実践は学校全体で取り組まなければ効果がでない。食育リーダー（栄養教諭や給食主任など）だけでは実践不可能である。食にかかわる多くの組織、人材と連携することで魅力的・実践的な食育活動可能になる。食育を全校あげて取り組むことはひとりひとりの教員の指導力向上につながり、ひいては学力向上につながると、熱く語りました。

会場の外に出れば、木曜朝市が開かれており、高知名物「冷やしあめ」や「ジャガイモの天ぷら」などの「ご当地の食」も堪能することができました。提案された内容も、実際の「食」も充実した高知大会でした。来年は、秋田大会です。



講演会